三国高等学校　　村　昭信先生

「これから教員を目指す人たちへ」

私には子供が２人いる。福井県で生まれ育ち、公教育のお世話になっている。節目節目での2人の成長が誇らしく、苦労もあるが子育てを楽しむことができている。親として多少なりとも彼らの成長に寄与できたと思っている。

教員になって２７年近くになる。これまでいったい何人の子供たちと関わってきたのだろうか。年間４クラス受け持つとして、部活動や学校行事なども含めると２００人ほどになり、２７年間で５，０００人以上になる。他の職業でこれほどまでの数の子供たちと関わり、影響を与えられる仕事はあるだろうか。自分の動作一つが、言葉一言が子供たちの心を動かし、それらが何かしらその子たちの生き方に役立ったのならこの上ない喜びである。

教員として「授業」で味わえる臨場感は大きな魅力だと思う。当然、その１時間でやるべきことを予め準備し、想定された台本は頭の中にある。しかし、実際の授業では子供たちの反応を見ながら伝え方や活動を変えたり、やり取りをしながら発展させたりと、授業が無機質な伝達作業ではなく、生き物のように感じられることがある。毎時間そういうふうにうまくいくわけではないし、想定しないことも起こったりするが、それは授業が生ものであるからだと思っている。

大学からの友人も教員が多く、中には大学の教員になったり、教育庁に勤めたり、キャリアアップして管理職になったものもいる。教員にはいろいろな「先」があり、すべて自分の努力、自己研鑽次第である。その多様性も教員の魅力の一つかもしれない。